

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-003316

(43)Date of publication of application : 07.01.2000

(51)Int.Cl.

G06F 13/00
H04L 12/54
H04L 12/58
// G06F 3/00

(21)Application number : 10-167141

(71)Applicant : CASIO COMPUT CO LTD

(22)Date of filing : 15.06.1998

(72)Inventor : FUJISAWA KAZUO

(54) MAIL DEVICE AND RECORDING MEDIUM WITH MAIL PROCESSING PROGRAM RECORDED THEREON

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To allow a mail device for efficiently exchanging mails in an electronic mail system to easily prepare and transmit return mails.

SOLUTION: When an automatic return selection button displayed in a command bar on a window W, 'Yes', is operated in a state where an received mail is opened and the mail window W is made to display its contents, a mail affirmative message 'This is Nakamura. It is OK' stored in advance is read, a return (Yes) mail G1 writing attached to a leading part of the received mail is generated and displayed, and a transmission origin address of the received mail is specified and transmitted. When the automatic return selection button 'No' is operated, a mail negative message 'This is Nakamura. Unfortunately, it is No' is read, a return (No) mail G2 writing attached to the leading part of the received mail is generated and displayed, the transmission origin address of the received mail is specified and is transmitted.

(A)

17
中村です。OKです。
> 返信です。
> 仕舞明会を待たすので出先・文庫を返信してください。
> 日時2月25日AM10:00~12:00
> 場所ミーティングルーム

(B)

17
中村です。残念ながらNOです
> 返信です。
> 仕舞明会を待たすので出先・文庫を返信してください。
> 日時2月25日AM10:00~12:00
> 場所ミーティングルーム

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-3316

(P2000-3316A)

(43) 公開日 平成12年1月7日 (2000.1.7)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード* (参考)
G 0 6 F 13/00	3 5 1	G 0 6 F 13/00	3 5 1 G 5 B 0 8 9
	3 5 4		3 5 4 D 5 K 0 3 0
H 0 4 L 12/54		3/00	6 5 4 B
12/58		H 0 4 L 11/20	1 0 1 B
// G 0 6 F 3/00	6 5 4		

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願平10-167141

(22) 出願日 平成10年6月15日 (1998.6.15)

(71) 出願人 000001443

カシオ計算機株式会社

東京都渋谷区本町1丁目6番2号

(72) 発明者 藤沢 和雄

東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ

計算機株式会社羽村技術センター内

(74) 代理人 100058479

弁理士 鈴江 武彦 (外5名)

Fターム(参考) 5B089 AD11 AF05 BB06 CB02

5K030 GA17 HA06 KA01 KA02 KA11

LA01 LD12

(54) 【発明の名称】 メール装置及びメール処理プログラムを記録した記録媒体

(57) 【要約】

【課題】 電子メールシステムにおいてメールのやり取りを効率的に行なうためのメール装置であって、返信メールの作成、送信を容易に行なうこと。

【解決手段】 受信メールを開封してその内容をメールウインドウWに表示させた状態で、当該ウインドウW上のコマンドバーに表示された自動返信選択ボタン「はい(Yes)」が操作されると、予め記憶されたメール肯定メッセージ「中村です。OKです。」が読み出されて前記受信メールの先頭に書き込み付加された返信(Yes) メール

G 1 が生成表示されて前記受信メールの発信先アドレスを指定して送信され、また、自動返信選択ボタン「いいえ(No)」が操作されると、予め記憶されたメール否定メッセージ「中村です。残念ながらNOです。」が読み出されて前記受信メールの先頭に書き込み付加された返信(No) メール G 2 が生成表示されて前記受信メールの発信先アドレスを指定して送信される。

自動返信 (Yes) メール (G1)

(A)

中村です。OKです。

> 藤沢です。

> 仕様説明会を開きますので出席・欠席を返信してください。

> 日時2月25日AM10:00~12:00

> 場所ミーティングルーム

自動返信 (No) メール (G2)

(B)

中村です。残念ながらNOです

> 藤沢です。

> 仕様説明会を開きますので出席・欠席を返信してください。

> 日時2月25日AM10:00~12:00

> 場所ミーティングルーム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 受信されたメールを開いて表示する受信メール表示手段と、

肯定又は否定を選択して簡易返信を指示する簡易返信指示手段と、

この簡易返信指示手段により肯定が選択されて簡易返信が指示された場合には、所定の肯定メッセージを前記受信メールの発信者宛てに返信し、また、否定が選択されて簡易返信が指示された場合には、所定の否定メッセージを前記受信メールの発信者宛てに返信する返信メール生成手段と、を備えたことを特徴とするメール装置。

【請求項 2】 前記返信メール生成手段は、

前記簡易返信指示手段により肯定が選択されて簡易返信が指示された場合には、所定の肯定メッセージを前記受信メールに付加してその発信者宛てに返信し、また、否定が選択されて簡易返信が指示された場合には、所定の否定メッセージを前記受信メールに付加してその発信者宛てに返信する返信メール生成手段であることを特徴とする請求項 1 に記載のメール装置。

【請求項 3】 さらに、

前記受信メール表示手段により表示された受信メールを訂正する訂正手段と、

この訂正手段により前記受信メールが訂正された否かを判断する訂正判断手段とを備え、

前記返信メール生成手段は、

前記簡易返信指示手段により肯定又は否定が選択されて簡易返信が指示された際に、前記訂正判断手段により前記受信メールが訂正されたと判断された場合には、所定の肯定又は否定の定型文に前記受信メールの訂正部分を組み合わせたメッセージを生成してその発信者宛てに返信する第 2 の返信メール生成手段を有している、ことを特徴とする請求項 1 に記載のメール装置。

【請求項 4】 受信されたメールを開いて表示する受信メール表示手段と、

この受信メール表示手段によるメール表示中に、スケジュール管理機能を起動するスケジューラ手段と、

このスケジューラ手段によりスケジュールを設定することに応じて、設定された時間情報を含めた定型メッセージを生成し、表示中のメールの発信者宛てに当該メールに対する返信メールとして送信する返信メール生成手段とを備えたことを特徴とするメール装置。

【請求項 5】 メール通信機能を備えたコンピュータを制御するためのメール処理プログラムを記録した記録媒体であって、

前記コンピュータを、

受信されたメールを開いて表示する受信メール表示手段、

肯定又は否定を選択させて簡易返信を指示させる簡易返信指示手段、

この簡易返信指示手段により肯定が選択されて簡易返信

が指示された場合には、所定の肯定メッセージを前記受信メールの発信者宛てに返信し、また、否定が選択されて簡易返信が指示された場合には、所定の否定メッセージを前記受信メールの発信者宛てに返信する返信メール生成手段、として機能させるためのメール処理プログラムを記録した記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、電子メールシステムにおいてメールのやり取りを効率的に行なうためのメール装置及びメール処理プログラムを記録した記録媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、電子メールシステムにおいて、あるコンピュータ端末にて受信されたメールに対する返信を出す場合には、返信用のメールの全体を受信者自身で作成して送信する必要がある。

【0003】すなわち、コンピュータ端末に搭載された従来あるメール処理機能に従ったメールの返信手順で

は、受信メールを開封して表示させ、返信ボタンを操作して返信メールの入力編集状態に設定し、返信メッセージを入力してメールを作成し、送信ボタンを操作して返信メールを送信する、という操作が必要になる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】このように、従来の電子メールシステムにおけるメール処理機能では、受信メールに対する返信メールも、新たな 1 つのメールとして前記 ~ の手順を経て作成し送信しなければなら

い。

【0005】このため、会議日程通知等のメールに対しての返事は、出席か欠席かのみであるにも拘らず、一々メールの全体を作成して送信しなければならず、簡単な返信内容でも返信メールの作成、送信を容易に行なうことができない問題がある。

【0006】本発明は、前記のような問題に鑑みなされたもので、返信メールの作成、送信を容易に行なうことが可能になるメール装置及びメール処理プログラムを記録した記録媒体を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】すなわち、本発明に係るメール装置は、受信されたメールを開いて表示する受信メール表示手段と、肯定又は否定を選択して簡易返信を指示する簡易返信指示手段と、この簡易返信指示手段により肯定が選択されて簡易返信が指示された場合には、所定の肯定メッセージを前記受信メールの発信者宛てに返信し、また、否定が選択されて簡易返信が指示された場合には、所定の否定メッセージを前記受信メールの発信者宛てに返信する返信メール生成手段とを備えたことを特徴とする。

3

【0008】このように、本発明に係わるメール装置では、受信開封表示されたメールに対し、肯定又は否定を選択して簡易返信を指示すると、肯定が選択されて簡易返信が指示された場合には、所定の肯定メッセージが前記受信メールの発信者宛てに返信され、また、否定が選択されて簡易返信が指示された場合には、所定の否定メッセージが前記受信メールの発信者宛てに返信されるので、例えば出欠確認等、簡単な受信メールを開封した場合の発信先への応答としては、肯定又は否定の簡易返信を指示するだけで、肯定又は否定メッセージが自動付加された返信メールが生成されて返信されることになる。

【0009】

【発明の実施の形態】以下図面により本発明の実施の形態について説明する。

(第1実施形態)図1は本発明のメール装置の実施形態に係わるパーソナルコンピュータの電子回路の構成を示すブロック図である。

【0010】このパーソナルコンピュータは、コンピュータ等からなる制御部(CPU)11を備えている。制御部(CPU)11は、図示しないキーボードやマウスを有する入力装置12から入力される各種の入力データに応じて、記憶装置13内のROMに予め記憶されているシステムプログラムを起動させ、あるいは外部記録媒体14に予め記憶されている計算機制御用プログラムや通信装置15を介して受信される計算機制御用プログラムを記憶装置13内のRAMに読み込んで起動させ、RAM16をワークメモリとして回路各部の動作制御を行なうものである。

【0011】この制御部(CPU)11には、前記入力装置12、記憶装置13、通信装置15、RAM16の他、表示装置17が接続される。入力装置12のキーボードには、例えば汎用されるパーソナルコンピュータと同種のキーボードが使用されるもので、テンキーや文字キー、実行キー、カーソルキー、各種ファンクションキー等が備えられる。

【0012】記憶装置13は、半導体メモリからなるROMを備えると共に、フロッピディスクドライバ等の外部記録媒体14の読み込み装置、ハードディスク装置等のRAMを備えている。

【0013】例えば前記記憶装置13のROMには、本パーソナルコンピュータの電子回路における全体の処理を司るシステムプログラムデータが予め記憶されると共に、受信メールの開封に伴ない返信メールの作成、送信を行なうための図3に示すメール開封処理等、各種の制御処理を司るサブプログラムデータである制御プログラムデータも予め記憶される。

【0014】また、前記記憶装置13のROMには、前記メール開封処理に伴ない返信メールの自動作成に際して使用される定型文のメッセージデータが予め記憶される自動返信メッセージメモリ13aが備えられる。

4

【0015】図2は前記パーソナルコンピュータのROM内に備えられる自動返信メッセージメモリ13aにおけるメッセージデータの記憶状態を示す図である。この自動返信メッセージメモリ13aには、メール開封処理の起動に伴ないメールウインドウW(図5参照)上に示される自動返信選択ボタン「はい(Yes)」「いいえ(No)」のそれぞれの操作に対応付けて使用される返信用書き込みメッセージ「中村です。OKです。」「中村です。残念ながらNOです。」が予め記憶される。

10 【0016】この返信用書き込みメッセージは、受信メールを選択しその内容を表示させた状態で、これに対する自動返信選択ボタン「はい(Yes)」を選択操作すると、前記受信メールの先頭部分に返信用書き込みメッセージ「中村です。OKです。」が書き込まれて返信メールが自動作成され、また、「いいえ(No)」を選択操作すると、同受信メールの先頭部分に返信用書き込みメッセージ「中村です。残念ながらNOです。」が書き込まれて返信メールが自動作成される。

20 【0017】RAM16には、前記記憶装置13のROMに予め記憶された各種の制御処理プログラムの実行に必要な様々な種類のデータを一時記憶するためのメモリエリアが備えられ、例えばメールの送受信処理に必要な通信先のメールアドレスを記憶するアドレスリストのメモリエリアや、送信、受信、返信の各メールデータを記憶するメモリエリア、スケジュールデータのメモリエリア、ToDoデータのメモリエリア等も備えられる。

30 【0018】通信装置15は、通信ネットワークNに接続され、この通信ネットワークNを介して接続されている他のコンピュータ端末装置との間で電子メール等のデータ通信(送受信)が行なわれる。

【0019】次に、前記構成によるパーソナルコンピュータにおける受信メールの開封処理に伴ない返信メールを作成して送信する際の動作について説明する。図3は前記パーソナルコンピュータにおけるメール開封処理を示すフローチャートである。

40 【0020】図4は前記パーソナルコンピュータのメール開封処理に伴ない受信メール一覧表示画面Gの表示状態を示す図である。図5は前記パーソナルコンピュータのメール開封処理に伴ないメールウインドウWの表示状態を示す図である。

【0021】図6は前記パーソナルコンピュータのメール開封処理に伴ない自動返信メール作成画面の表示状態を示す図であり、同図(A)は受信メールを肯定するための返信(Yes)メール作成画面G1の表示状態を示す図、同図(B)は受信メールを否定するための返信(No)メール作成画面G2の表示状態を示す図である。

50 【0022】まず、表示装置17の表示画面上に表示されているコマンドバーのメールボックスが指示されてクリックされることで、記憶装置13内のROMに予め記憶されているメール処理プログラムが読み込まれ、図3

5

における受信メール開封処理が起動されると、図4に示すように、このコンピュータ端末のメールアドレスを指定して受信されている全てのメールデータがRAM16内の受信メールメモリエリアに記憶されると共に、各受信メールの日時、発信先、題名が配列された受信メール一覧表示画面Gが表示装置17に表示される(ステップS1)。

【0023】この受信メール一覧表示画面Gが表示装置17に表示された状態で、任意の受信メールが選択指示されてクリックされると、図5に示すように、選択された受信メールの内容が読み出され、メールウインドウWとして表示装置17に表示される(ステップS2→S3)。

【0024】このメールウインドウWのコマンドバー21には、返信メールの作成、送信を行なうための返信ボタン22、転送メールの作成、送信を行なうための転送ボタン23等の通常のメール処理に必要なコマンドボタンの他に、受信メールに対する返信メールを自動で作成して送信するための自動返信選択ボタン「はい(Yes)」24a、「いいえ(No)」24bが設けられる。

【0025】このメールウインドウWにおいて、例えば図5に示すように、日時、場所を指定して出席・欠席の確認を促すための受信メールが表示されている状態で、そのコマンドバー21に設けられた自動返信選択ボタン「はい(Yes)」24aが操作されると、これに対応して記憶装置13内の自動返信メッセージメモリ13a(図2参照)に記憶されているメール肯定のための返信用書き込みメッセージ「中村です。OKです。」が読み出され、図6(A)に示すように、この返信用書き込みメッセージ「中村です。OKです。」が前記受信メールの内容の先頭に書き込まれて付加された返信(Yes)メールG1が生成表示され、この返信(Yes)メールG1は、対応する前記受信メールの発信先であるメールアドレスを指定して通信装置15から送信される(ステップS4→S5、S6)。

【0026】すると、スケジュール及びToDoのメニュー選択用のアイコンが表示装置17に表示され、例えばスケジュールのメニュー選択用アイコンが選択指示されてクリックされると、前記受信メール(図5参照)に記述されている日時、場所、題名等からなるメールデータが、スケジュールデータとしてRAM16内に備えられるスケジュールメモリに登録される(ステップS7、S8→S9)。

【0027】また、前記表示装置17に表示されたスケジュール及びToDoのメニュー選択用アイコンについて、例えばToDoのメニュー選択用アイコンが選択指示されてクリックされると、前記受信メール(図5参照)に記述されている日時、場所、題名等からなるメールデータが、ToDo(何時までに・何をする)データとしてRAM16内に備えられるToDoメモリに登録

6

される(ステップS7、S8→S9)。

【0028】一方、前記ステップS4において、メールウインドウW上のコマンドバー21に設けられた自動返信選択ボタン「いいえ(No)」24bが操作されると、これに対応して記憶装置13内の自動返信メッセージメモリ13a(図2参照)に記憶されているメール否定のための返信用書き込みメッセージ「中村です。残念ながらNOです。」が読み出され、図6(B)に示すように、この返信用書き込みメッセージ「中村です。残念ながらNOです。」が前記受信メールの内容の先頭に書き込まれて付加された返信(No)メールG2が生成表示され、この返信(No)メールG2は、対応する前記受信メールの発信先であるメールアドレスを指定して通信装置15から送信される(ステップS4→S10、S11)。

【0029】なお、前記ステップS4において、メールウインドウW上の返信ボタン22が指定されてクリックされると、メール内容の全体を作成して、送信する通常のメール返信処理に移行される(ステップS4→S12)。また、前記メールウインドウW上の転送ボタン23が指定されてクリックされると、通常のメール転送処理に移行される(ステップS4→S13)。

【0030】したがって、前記構成のパーソナルコンピュータにおける受信メール開封処理に伴う返信メールの作成、送信機能によれば、任意の受信メールを開封してその内容をメールウインドウWに表示させた状態で、当該メールウインドウW上のコマンドバー21に表示された自動返信選択ボタン「はい(Yes)」24aが操作されると、自動返信メッセージメモリ13aに予め記憶されたメール肯定のための返信用書き込みメッセージ「中村です。OKです。」が読み出されて前記受信メールの先頭に書き込み付加された返信(Yes)メールG1が生成表示されて前記受信メールの発信先であるメールアドレスを指定して送信され、また、自動返信選択ボタン「いいえ(No)」24bが操作されると、自動返信メッセージメモリ13aに予め記憶されたメール否定のための返信用書き込みメッセージ「中村です。残念ながらNOです。」が読み出されて前記受信メールの先頭に書き込み付加された返信(No)メールG2が生成表示されて前記受信メールの発信先であるメールアドレスを指定して送信されるので、会議への出欠確認等、簡単な受信メールを開封した場合の発信先への応答としては、メールウインドウW上に共に表示された自動返信選択ボタン「はい(Yes)」24a又は「いいえ(No)」24bを操作するだけで、非常に簡単に肯定又は否定メッセージが自動的に付加された返信メールが生成されて送信されるようになる。

【0031】なお、前記第1実施形態のメール開封処理における返信メールの作成、送信機能では、受信メールによる出欠確認等の問い合わせ対して、自動返信選択ボタン「はい(Yes)」24a又は「いいえ(No)」24bの

操作により肯定又は否定メッセージの何れかのみを付加した返信メールを作成して送信するものとして構成したが、次の第2実施形態にて説明するように、自動返信選択ボタン「いいえ(No)」24bを操作した場合であっても、条件付きで肯定するメッセージを付加した返信メールを自動生成して送信する機能を備えた構成としてもよい。

【0032】(第2実施形態)図7は前記図3における第1実施形態のメール開封処理の一部を変更してなる第2実施形態のメール開封処理を示すフローチャートである。

【0033】図8は前記第2実施形態のメール開封処理に伴う自動返信条件付きNoメール作成画面G3の表示状態を示す図である。すなわち、受信メールの内容が開封されてメールウインドウWとして表示装置17に表示された状態(図3参照)において、例えば受信メールで指定された時間のAM10:00~12:00には都合が悪いものの、PM4:00~5:00なら都合が良い場合に、当該受信メールの先頭部分に「PM4:00~5:00」と入力してメール訂正した後に、自動返信選択ボタン「いいえ(No)」24bが操作されると、メールウインドウW上のメール内容に変更部分有りと判断されると共に、その変更部分「PM4:00~5:00」が、記憶装置13に予め記憶されている定型文「中村です。NOですが、…ならOKです。」にあてはめられ、返信メッセージ「中村です。NOですが、PM4:00~5:00ならOKです。」が作成され、図8に示すように、この返信メッセージが受信メールの先頭に付加されて返信条件付NoメールG3として発信人に送信される(ステップS3、S4a→A1→A2、S11)。

【0034】一方、前記メールウインドウW上のメール内容に変更部分が無い状態で、自動返信選択ボタン「いいえ(No)」24bが操作された場合には、前記第1実施形態と同様に、これに対応して記憶装置13内の自動返信メッセージメモリ13a(図2参照)に記憶されているメール否定のための返信用書き込みメッセージ「中村です。残念ながらNOです。」が読み出され、図6

(B)で示したように、この返信用書き込みメッセージ「中村です。残念ながらNOです。」が前記受信メールの内容の先頭に書き込まれて付加された返信(No)メールG2が生成表示され、この返信(No)メールG2は、対応する前記受信メールの発信先であるメールアドレスを指定して通信装置15から送信される(ステップS3、S4a→A1→A3、S11)。

【0035】したがって、この第2実施形態のメール開封処理に伴う返信メールの作成、送信機能によれば、メールウインドウW上で開封表示された受信メールの内容に対し、例えば希望の時間「PM4:00~5:00」を入力して訂正、変更し、自動返信選択ボタン「いいえ(No)」24bを操作すると、当該変更部分「PM4:00~5:00」が予め記憶された定型文「中村です。NOですが、…ならO

Kです。」にあてはめられて条件付きの返信メッセージが生成され、この返信メッセージが受信メールの先頭に付加された返信メールとして発信人に送信されるので、この場合も、非常に簡単に肯定又は否定メッセージを自動的に付加して返信メールを生成送信できるだけでなく、予め記憶する定型文の種類によって条件付きで肯定や条件付きで否定等のメッセージを付加した返信メールを容易に生成し送信できるようになる。

【0036】さらに、前記各実施形態では、会議出欠確認等の受信メールの開封表示に対し、2つの自動返信選択ボタン「はい(Yes)」24a又は「いいえ(No)」の選択操作により、肯定メッセージ系の返信メールか又は否定メッセージ系の返信メールを自動生成して送信する構成としたが、空きスケジュール確認等の受信メールの開封表示に際し、スケジュール機能を利用して都合の良い日時を選択し、これを簡単な返信メッセージとして作成送信する構成としても良い。

【0037】(第3実施形態)図9は前記図3における第1実施形態のメール開封処理の一部を変更してなる第3実施形態のメール開封処理を示すフローチャートである。

【0038】図10は前記第3実施形態のメール開封処理に伴う自動返信スケジュールメール作成画面G4の表示状態を示す図である。この場合、メールウインドウW上のコマンドバー21には、前記返信ボタン22、転送ボタン23、自動返信選択ボタン24a、24bの他に、スケジュール機能上で登録管理されているカレンダーデータを読み出して表示させるためのスケジュールボタンも設けられる。

【0039】すなわち、受信メールの内容が開封されたメールウインドウWにおいて、例えば、都合の良い日時を伺うための受信メール「ミーティングはいつにしますか。」等が表示されている状態で、コマンドバー21に設けられたスケジュールボタンが操作されると、このパーソナルコンピュータのスケジュール機能上でRAM16内に登録管理されているカレンダーデータが読み出されて表示装置17に表示される(ステップS3、S4b→B1)。

【0040】ここで、都合の良い日時が選択されて指定されると、この指定日時、例えば「3月25日PM1:00~3:00」が、記憶装置13内に予め記憶されている定型文「中村です。…でOKです。」にあてはめられ、返信メッセージ「中村です。3月25日PM1:00~3:00でOKです。」が作成され、図10に示すように、この返信メッセージが受信メールの先頭に付加されて返信スケジュールメールG4として発信人に送信される(ステップB2、B3)。

【0041】また、これに伴ない、前記指定された日時「3月25日PM1:00~3:00」と受信メールの内容「ミーティングはいつにしますか。」から生成される新たなス

スケジュールデータが、RAM 16 内のスケジュールメモリに記憶されて登録される（ステップ B 4）。

【0042】したがって、この第3実施形態のメール開封処理に伴う返信メールの作成、送信機能によれば、都合の良い日時を伺うための受信メールの開封表示に際し、メールウインドウ W 上のコマンドバー 21 に設けられたスケジュールボタンが選択操作されると、スケジュール機能上で管理されるカレンダーデータが読み出されて表示され、これに基づき都合の良い日時が指定されると、当該指定日時なら OK であるとの簡単な返信メッセージが生成され、前記受信メールの先頭に付加された返信メールとして発信人へ送信されるので、この場合も、非常に簡単に肯定又は否定メッセージを自動的に付加して返信メールを生成送信できるだけでなく、スケジュール確認等の受信メールに対しても容易に都合の良いスケジュールを指定した返信メールを生成して送信できるようになる。

【0043】なお、前記各実施形態において記載した手法、すなわち、図3のフローチャートに示す第1実施形態のメール開封処理、この図3のフローチャートに図7のフローチャートを組み合わせて示す第2の実施形態のメール開封処理、前記図3のフローチャートに図9のフローチャートを組み合わせて示す第3実施形態のメール開封処理等の各手法は、コンピュータに実行させることができるプログラムとして、メモリカード（ROMカード、RAMカード等）、磁気ディスク（フロッピーディスク、ハードディスク等）、光ディスク（CD-ROM、DVD等）、半導体メモリ等の外部記録媒体14に格納して配布することができる。そして、このパーソナルコンピュータの制御部（CPU）11であるコンピュータは、この外部記録媒体14に記録されたプログラムを記録媒体読み取り部（例えば記憶装置13）によって読み込み、この読み込んだプログラムによって動作が制御されることにより、前記各実施形態において説明したメール開封処理に伴う返信メールの自動作成送信機能を実現し、前述した手法による同様の処理を実行することができる。

【0044】

【発明の効果】以上のように、本発明に係わるメール装置によれば、受信開封表示されたメールに対し、肯定又は否定を選択して簡易返信を指示すると、肯定が選択されて簡易返信が指示された場合には、所定の肯定メッセージが前記受信メールの発信者宛てに返信され、また、否定が選択されて簡易返信が指示された場合には、所定の否定メッセージが前記受信メールの発信者宛てに返信されるので、例えば出欠確認等、簡単な受信メールを開封した場合の発信先への応答としては、肯定又は否定の簡易返信を指示するだけで、肯定又は否定メッセージが自動付加された返信メールが生成されて返信されるようになる。よって、本発明によれば、返信メールの作成、

送信を容易に行なうことが可能になる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のメール装置の実施形態に係わるパーソナルコンピュータの電子回路の構成を示すブロック図。

【図2】前記パーソナルコンピュータのROM内に備えられる自動返信メッセージメモリにおけるメッセージデータの記憶状態を示す図。

【図3】前記パーソナルコンピュータにおけるメール開封処理を示すフローチャート。

10 【図4】前記パーソナルコンピュータのメール開封処理に伴う受信メール一覧表示画面Gの表示状態を示す図。

【図5】前記パーソナルコンピュータのメール開封処理に伴うメールウインドウWの表示状態を示す図。

【図6】前記パーソナルコンピュータのメール開封処理に伴う自動返信メール作成画面の表示状態を示す図であり、同図（A）は受信メールを肯定するための返信（Yes）メール作成画面G1の表示状態を示す図、同図

20 （B）は受信メールを否定するための返信（No）メール作成画面G2の表示状態を示す図。

【図7】前記図3における第1実施形態のメール開封処理の一部を変更してなる第2実施形態のメール開封処理を示すフローチャート。

【図8】前記第2実施形態のメール開封処理に伴う自動返信条件付きNoメール作成画面G3の表示状態を示す図。

【図9】前記図3における第1実施形態のメール開封処理の一部を変更してなる第3実施形態のメール開封処理を示すフローチャート。

30 【図10】前記第3実施形態のメール開封処理に伴う自動返信スケジュールメール作成画面G4の表示状態を示す図。

【符号の説明】

11 …制御部（CPU）、

12 …入力装置、

13 …記憶装置、

13a …自動返信メッセージメモリ、

14 …外部記録媒体、

15 …通信装置、

40 16 …RAM、

17 …表示装置、

N …通信ネットワーク、

21 …コマンドバー、

22 …返信ボタン、

23 …転送ボタン、

24a …自動返信選択ボタン「はい(Yes)」、

24b …自動返信選択ボタン「いいえ(No)」、

G …受信メール一覧表示画面、

G1 …返信(Yes) メール作成画面、

50 G2 …返信(No) メール作成画面、

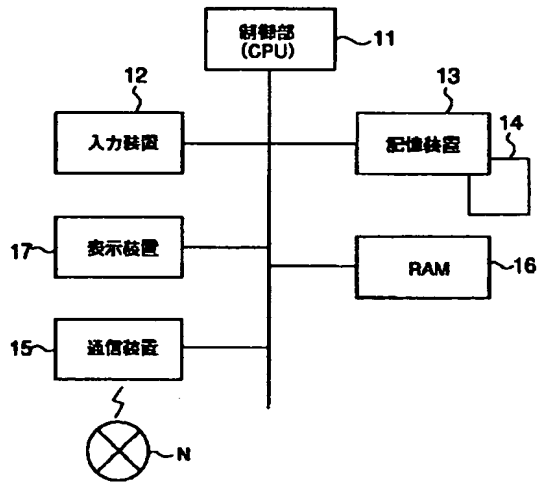
11

G 3…条件付きNoメール作成画面、

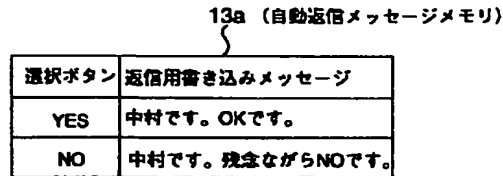
12

G 4…スケジュールメール作成画面。

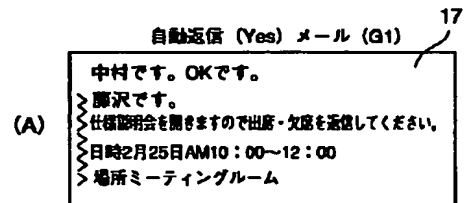
【図1】



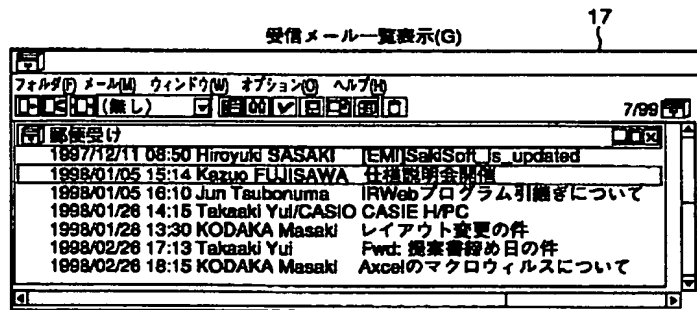
【図2】



【図6】

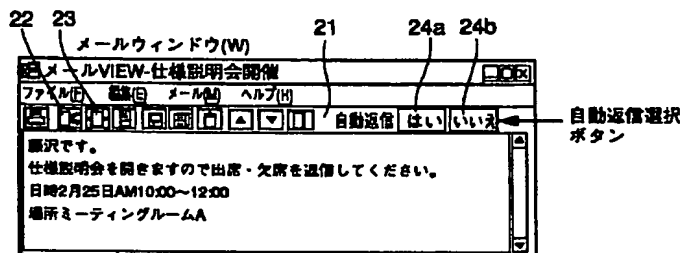


【図4】

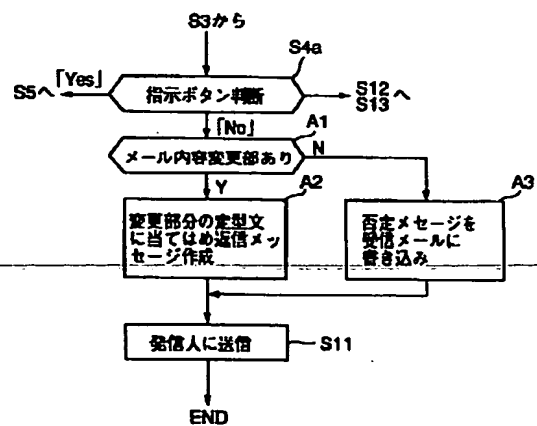
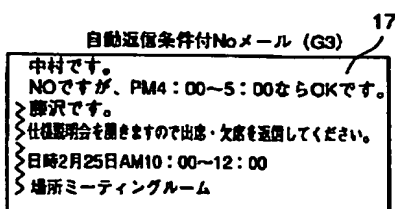


【図5】

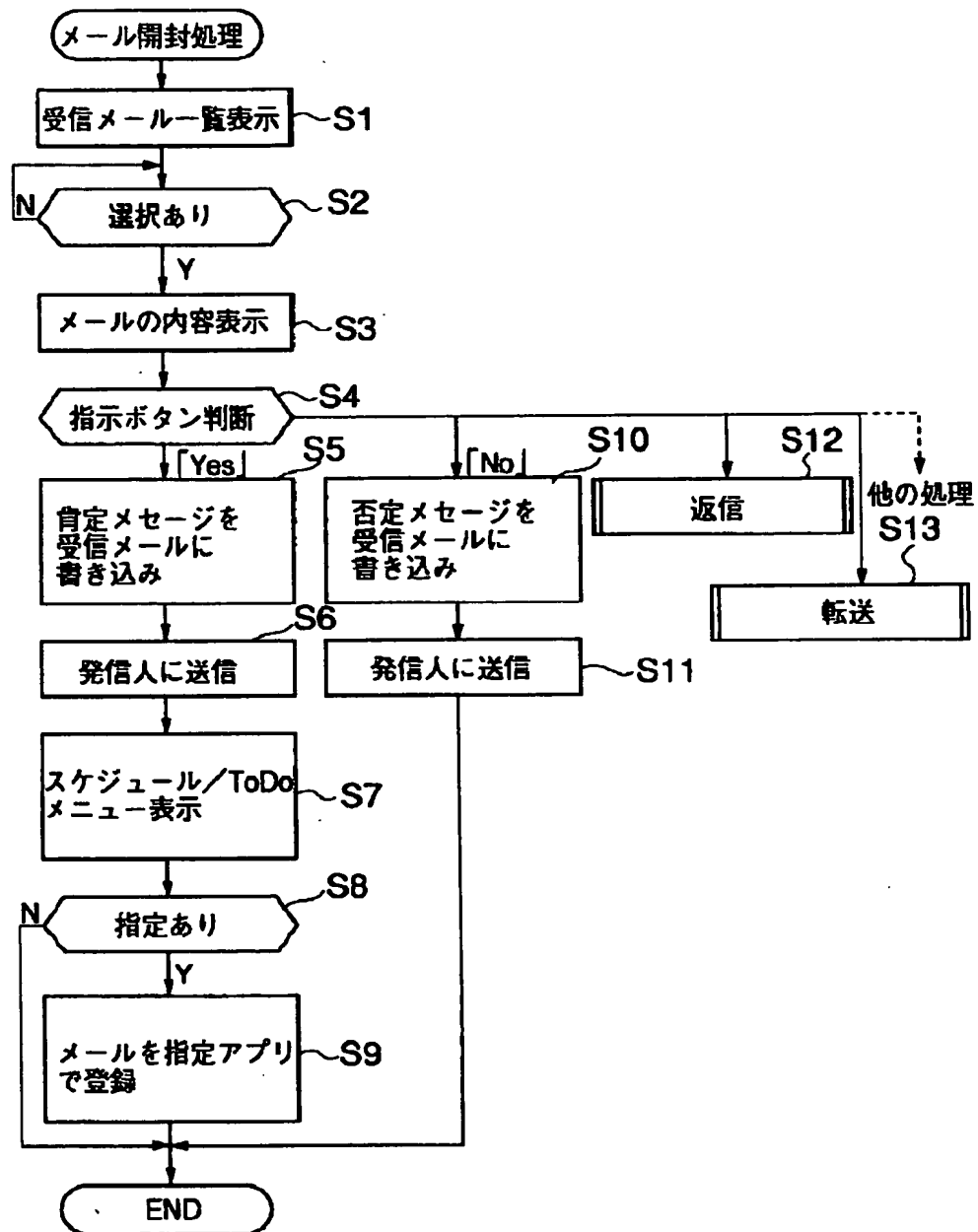
【図7】



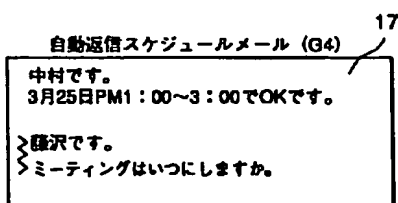
【図8】



【図3】



【図10】



【図 9】

